海禅寺七不思議

その1　山の中にあるのに海禅寺

海禅寺で検索すると関東から西にいくつか存在する

もとは海ではなかったかも

＜信州　上田　海禅寺の資料から抜粋（感謝）

開善寺　平安時代　皇室と縁の深かった滋野氏や、その系統を伝える豪族海野氏の祈願寺であった。

天正１１年（1583年）、真田昌幸公の上田城築城にあたり開善寺は、城の鬼門除けのため現在の地に移され、「海禅寺」と改称、上田城下町鎮護の寺となった。＞＜真田は海野氏から派生した一族>

善を開くなら意味がまあわかりますねー　海の禅は略語？？

その2　開基が堅田 元慶であること　開基（寺の建立に多大な功績をした人）

毛利家のNo. 2で多くの所領があった人物がなぜこの辺鄙な寺に肩入れしたのか

（かただ もとよし、永禄11年〈1568年〉- 元和8年〈1622年〉）は、安土桃山時代から江戸時代前期にかけての武将。毛利氏、小早川氏の家臣。

天正19年（1591年）頃のものとされる「八ヶ国御時代分限帳」には元慶の所領として安芸国・周防国・長門国・出雲国の4ヶ国に渡って7438石9升と記されている。寺の命名はおそらくこの方かな･･･

その3　堅田元慶の慰霊を行うための供養塔塔が複数あること

１つで良いはずなのに４つもあること

１つが堅田元慶として、残りは誰のため？？

その4　天明3年に禅宗の寺としての仏像が整えられたこと

仏像修理中に発見したもの右図

禅宗の寺に必ずある２体の仏像

浅間山の噴火により天明２年から３年にかけて不作大飢饉の時期に

なぜか

江戸時代　新井白石が活躍した時代

左図修理中の時の仏像

その5　本尊　十一面観音　作者　恵心僧都

＜参考資料　防長社寺由来＞

とあるが、現存する仏像は十一面観音菩薩の像には見えない

印相は指で輪を作っている　来迎印とされるもの

上品下生印と分類されたのは江戸時代なので阿弥陀如来とは確定できない
宝冠があり如来ではなく菩薩像であることは間違いないが十一面の特徴である
複数の仏頭が見られない。
他の寺院で阿弥陀如来を薬師如来としたり大師像を観音菩薩としているところもあるので最初に僧がこれは〇〇であるといえばそうなった可能性もある。
おまけに観音様は様々に姿を変えられる方なので
どのような姿であってもいいのかも・・・

恵心僧都（天台宗　浄土教）　後　法然や親鸞に受け継がれる

寛和元年（985）平安時代　藤原氏が権力を得た頃　　四十四歳の時、叡山浄土教大成の書『往生要集（おうじょうようしゅう）』三巻を完成。その序文の冒頭で「夫れ往生極楽の教えと実践は濁世末代（じょくせまつだい）の目となり足となる重要なものである」と述べ、浄土念仏に関する百六十余部九百五十余文にも及ぶ経論の要文を典拠として引用しつつ、自らの念仏往生の思想とその実践方法をまとめた人。

（この人が仏師という記述を見つけていないので別の方か？？）

その6　なぜ龍の文字を用いたのか

伝承　明応葵丑二年（室町幕府の時代）に龍吟庵（真言宗）として建立
そのことで現在　龍吟山を山号とする
龍吟としたのはなぜでしょう
近くには龍門岳という山がある　椹野川の源流にある
風水の配置か？
水は青龍　龍脈は水の流れのこと

その7　釣屋があることや本堂上にこのあたりにはない構造があること
須弥壇の上の天井は天皇が住まわれる形式となっている

近隣の寺にはこうした構造が見られない
なぜここだけそうしたのか

実はまだまだあるのですが、今回史跡めぐりをされるとのお話を聞いて7つほどまとめてみました。

お寺に文書が残っていればいいのですけれど萩の乱の時に官軍によって住職が拉致され関係書類も没収されたとか、またお寺の作法として住職が変わる場合に過去帳や仏像仏具以外のもので住職があつらえたものや書き付けはお寺に残さないというようなこともあったようで祖父からのものだけです。

浅学ですので間違いもあるかと思います。お許しください。

令和５年５月　御幡正章